

## Evening Wide

## まちかどエッセー

高橋 由佳



私たちの法人では、スタッフが就労支援を通じて日々さまざまな方の「働く」ストーリーに出合います。一緒に仕事を探しながら、将来の働き方を考えていく上で、ワークライフバランスはキーになっています。

卒組みに縛られ、それらをかき消されてしまうのではないかとこのころです。私の会社勤務時代はバブル全盛期で、「お金」が仕事のステータスの一つだったように記憶しています。お金さえあれば安心・安全

働き続けることができるかが幸せの一つになってきました。また、お金に依存しない生き方は、イコール自分らしい働き方になってきているように感じます。最近、ボランティアに来る大学生の皆さんから「就

方々が持つようになったのも、リーマンショック以降の世界経済がマネーゲームから脱却しなければならないと感じ始めているのと同様に、働くことが、単に上場企業へ就職することや収入を得るためだけではないと思う若者が増えたからではないかと考えます。

## 自分らしい働き方とは

最近の社会の潮流でしょうか、企業の「働き方」という概念が変化しているように思います。私自身もNPOという枠組みで働く立場で思っているのは、人はどこかで「誰かの役に立ちたい」という気持ちを片隅に持ちながらも、「会社」という

な生活が保障される、将来もずっとこの日常が続くのだと信じた時代でした。今は、消費の時代は終わったのではないかと思うほど、所有することで幸せになるという感覚は、もう自分にはありません。それよりも、いかに健康で楽しく

職先としてソーシャルビジネスの分野を考えている」という声を聞きます。どんな企業なのかという前に、どんな社会貢献ができるかを考えているとのこと。すばらしいなあと自分の若い頃と比較してしまいます。そういう選択肢を若い

少子高齢化・核家族などの社会変容から、待機児童や介護離職の問題など、家族システムだけで支え合ってきたことができなくなってきた今、改めて自分らしい働き方に関心を持つていきたいと思いました。

ながら、「会社」という

りも、いかに健康で楽しく

そういう選択肢を若い

(認定NPO法人Swit ch理事長)